


兵庫県内経済情勢報告 (令和4年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」






項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	

(注) 4年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。以上のことから県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年1月判断）	今回（4年4月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	
生産活動	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
雇用情勢	弱い動きとなっている	一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	
設備投資	3年度通期は前年度を下回る見込みとなっている	3年度通期は前年度を下回る見込みとなっている	
企業収益	3年度通期は増益見込みとなっている	3年度通期は増益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や供給面での制約、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では、高額品等が引き続き好調であることから、売上が堅調に推移している。また、スーパーでは、気温が低い日が多く冬物商品等が好調であることから、概ね前年並みに推移している。

ショッピングセンター販売は、飲食店等が不調であるものの、高級ブランド品や家庭用品などが好調であることから、緩やかに持ち直している。

コンビニエンスストア販売は、客足の戻りは悪いものの、酒類等が好調であることから、売上が堅調に推移している。

ドラッグストア販売は、マスクなどのヘルスケア用品や酒類等が好調であることから、売上が堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、半導体不足により一部商品に供給不足が発生していることや、前年の巣ごもり需要の反動により生活家電等の需要にも落ち着きが見られるなど、持ち直しの動きに一服感がみられる。

乗用車の新車登録届出数は、供給面での制約により納期が長期化するなど、前年を下回っている。

その他、宿泊施設や飲食店においては、感染症再拡大の影響を受け厳しい状況となっているものの、宿泊施設については、一部地域での宿泊に動きが見られる。

これらのことから、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- まん延防止等重点措置発令後は、客数が減り売上が落ち込んだが、同措置解除後は、気温の上昇もあり客数の戻りとともに売上は伸びており、感染者数が今後大きく増加しなければ現在の売上を維持できる見込み。なお、商品別では、高額品が相変わらず好調で、足下では化粧品も緩やかに回復している。(百貨店・大企業)
- 今期は気温が低かったため鍋物商材が好調だったほか、冷凍食品を中心にストック需要も依然根強い。値上げについては、市場動向を踏まえつつ、適正なタイミングで実施できるよう検討している。(スーパー・大企業)
- 感染が再拡大した1月中旬以降は、レストランや衣料品を中心に厳しかったが、高級ブランド品は好調だった。3月は、気温上昇に伴い客数が徐々に戻り、まん延防止等重点措置解除後は、来店客の滞在時間が伸びたことでレストランも回復基調にある。(ショッピングセンター・中堅企業)
- まん延防止等重点措置発令後は、20時以降の来店客数が減少し、夜間の売上も減少した。同措置解除後は、来店客数は増えているものの例年より気温が低かったため、ソフトドリンク等の売れ行きが悪く、売上の回復ペースは緩やか。また、コロナ禍以降、花見のスタイルが、BBQや宴会をするのではなく静かに花見を済ませるようになっており、花見シーズンの売上は過去ほど伸びていない。一方で、自宅用の酒類、惣菜類などは引き続き好調である。(コンビニエンスストア・大企業)
- 今期は前年の巣ごもり需要の反動により食料品に一服感がみられたものの、マスク、体温計等のヘルスケア用品や酒類が好調。店舗ごとの入店状況は、人流抑制が前年同期ほど厳しくなかったため、駅前店舗で若干の回復が見られた一方、前年は出勤抑制等の影響で好調だった郊外店舗では前年同期を下回った。(ドラッグストア・大企業)
- ゲーム機や電子ピアノなど一部の商品は、供給不足解消の兆候が見えない。また、生活家電である空気清浄機などは、購入が進んだ前年の反動により不調。一方、運動不足解消を目的とした健康志向の高まりと密を避ける移動手段として、電動自転車が好調。(家電量販店・中堅企業)

- 売上台数は前四半期と比べ増加したものの、半導体不足等による生産調整が影響し、今期の売上は、コロナ前の同時期と比べて減少している。生産が回復しないため納車が長期化しているものの、受注は好調であり、4月以降は増産が見込まれる。
(自動車販売店・中堅企業)
- 今年1月以降の売上は前年同時期に比べ増加したが、緊急事態宣言中だった昨年が悪かっただけで、一昨年と比べると売上は減少している。仕入価格がすべての食材で高騰しているため、宿泊プランを値上げし客単価も上昇したが、仕入価格上昇分が客単価上昇分を上回っており、厳しい状況にある。
(宿泊・観光協会)
- オミクロン株の影響で2月は売上を落としたが、3月以降は、地方での宿泊は比較的堅調。特にまん延防止等重点措置解除後は、コロナ禍前と同水準の業績を見込んでいる。
(宿泊・中小企業)
- 足下の客数は、まん延防止等重点措置発令前と比べ減少している。終電時間の繰上げや、長引く自粛生活により22時以降の人流は減少している。会社の歓送迎会は皆無で、常連客が少人数で来店している状況。
(飲食・商店街振興組合)

■ 生産活動 「一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

鉱工業指数(生産)は、「輸送機械工業」等が低下しているものの、「化学工業」や「電気・情報通信機械工業」等が上昇している。なお、企業からは、半導体などの部品不足により製品の納期が長期化しているとの声がある一方、部品供給不足が解消されつつあるとの声も聞かれる。

これらのことから、生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- ロボット分野では、電子部品等の供給不足や物流混乱の状況が継続しているものの、半導体製造装置メーカーの積極的な設備投資により好調に推移している。一方、航空機及び車両部門では、旅客需要の減少により厳しい状況が続いている。
(輸送機械・大企業)
- コロナ禍の受診控えの影響で、病院で使用する治療薬の需要が落ち込んでいたが、感染者数の落ち着きとともに検査数が増え、治療薬の需要が高まってくる見込み。
(化学・大企業)
- データセンター向け半導体需要が好調なため、工場はフル稼働状態である。一方で当社の製品に組み込む半導体などの供給が遅れており、当社製品の出荷が後ろ倒しになっている。
(電気機械・大企業)
- 令和3年下旬に滞っていた半導体などの部品調達が足下で解消されつつあり、5Gスマホの生産が回復している。
(情報通信機械・大企業)
- 原材料である樹脂が不足し工場稼働率を落としていたが、樹脂不足は徐々に解消され、工場稼働率は上昇している。
(金属製品・大企業)
- 半導体及び自動車部品の供給不足は、年明けから解消されつつある。
(運輸・郵便・大企業)

■ 雇用情勢 「一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる」

令和4年2月の有効求人倍率を令和3年11月と比べると、受理地別では0.96倍に、就業地別では1.08倍にそれぞれ上昇し、さらに、新規求人数も増加している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和3年10～12月期調査の14.7%ポイントから令和4年1～3月期調査の16.5%ポイントに「不足気味」超幅が拡大している。

以上のことから、雇用情勢は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 新規求人数(原数値)は、5か月連続で増加しており、製造業の回復が主な要因。求職者については、まん延防止等重点措置解除前後で比較すると、若干増加した程度である。(公的機関)
- 社内全体における正規雇用の従業員数は、直近3年程度でみると増加している。専門性を持った即戦力は、全体的に不足しており確保に苦戦している。(輸送機械・大企業)
- 当社製品の需要増加に対応するために、賃金上昇など雇用条件の見直しを検討し、エンジニアや製造職の人員増強にあたっている。(電気機械・大企業)
- コロナ禍で宅配需要が伸びており、配送担当の人員を増強している。また社内で感染者が拡大した場合の代替人員の確保も必要なためさらなる増強が必要である。(スーパー・大企業)
- 従前より旅館の雇用は難しい状況が続き、特に外国人の従業員確保が難しくなっている。派遣社員で人員確保を行っているが、派遣社員の単価が上昇している。(宿泊・中小企業)
- 飲食店の営業を継続するためにアルバイト求人を出しているが、コロナ禍で飲食店を離職した人などを含め応募がなく、アルバイトを雇うには、時給を上げるしかない。(飲食・商店街振興組合)

■ 設備投資 「3年度通期は前年度を下回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和4年1～3月期調査)でみると、3年度通期の設備投資は、非製造業では「運輸・郵便」等が前年度を上回っているものの、製造業では「鉄鋼」等が前年度を下回っていることから、全産業では「前年度を下回る見込み」となっている。

■ 企業収益 「3年度通期は増益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和4年1～3月期調査)でみると、3年度通期の経常利益は、製造業では「鉄鋼」等が増益見込みとなっており、非製造業では「運輸・郵便」等が増益見込みとなっていることから、全産業では「増益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和4年2月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和4年3月、年度累計）でみると、前年を下回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和3年12月-令和4年2月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、非鉄金属等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入も前年を上回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和4年1-3月、3ヶ月平均）は、前年を下回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和4年1~3月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、令和4年4~6月期は「上昇」と「下降」が均衡し、7~9月期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

（注）本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942